

産学官民連携部会MANGOは次のステージへ

「10年間で1000のプロジェクトを産み出し1000人の雇用を実現する！」をスローガンに2011年に設立された産学官民連携部会MANGO（以下、MANGO）は今年度で9期目となる。設立から数年が経過した頃、徐々に例会参加者が少なくなり、参画している委員も減ってきたため、ここ2〜3年はとにかく賑やかで楽しい例会にして参加者を増やすことを最優先に活動してきた。その試みは着実に成果を出し、現在では特に動員するわけでもないのに毎回多くの人が例会には参加するようになった。例会前の1時間を活用して行なっている運営委員会の出席率も高く、委員も増えてきている。このように活動が活性化してくると、単に例会の賑やかさだけでなく、本来の組織の趣旨に沿った活動が出来ているのか必然的に考えるようになってくるもので、前期の終わり頃から、運営委員の中から様々な問題提起が上がってくるようになった。そこで、臨時運営委員会を2019年5月15日、TNAソリューションデザイン株式会社の会議室で開催し、13名の運営委員で今後の活動方針を協議した。



まずは現在の課題を抽出することにして、意見交換を行った。そこで上がった課題の第一は、本来の趣旨である「新たなビジネスの創出」がほとんど行われていないことだ。約8年間の活動の集約が行われていないことも問題であり、過去にサポートした企業や事業が現在どうなっているかも把握されていない。第二に、ビジネスマッチングを目的にしている例会が、ほとんどマッチングに



繋がっておらず、単なるセミナーに近い形になっている。わずかな質疑応答の時間では特にマッチングやサポートにはならないため、例会後の継続的活動への流れが必要になってくる。そして第三が、組織そのものの体制として、上位組織である宮崎県中小企業家同友会（以下、同友会）の運動との関連性が低いことであり、組織増強にもほとんど繋がっていない。産学官民連携部会という名称だが、現在は官（政府・地方公共団体等）や金融機関の参画も少ない。このような問題点を解消する今年度の活動方針として、大別して以下の三つの点を決定した。

例会の在り方を常に改善

ここ2〜3年は、プレゼンターを2名、各60分の講話と質疑応答という形で固定してきたが、当面は従来型の例会を隔月にし、プロジェクトの打ち合わせやサポートをしっかりと行える体制を作ることにした。また、通常例会も形式を固定せず、臨機応変に組み立てていくことにした。

プロジェクト支援体制を構築

MANGOとして支援してきた過去のプロジェクトや今後の事業を一定の定義の元に認定し、継続的に支援していく体制を構築する。プロジェクトの終了もしくは支援の終了においても、報告書等を作成し、成果検証を行う。

他団体とのコラボレーション促進

自由度の高いMANGOの活動体制を活かし、同友会以外の団体とのコラボレーション企画も促進し、地域に経済に貢献できる活動を目指す。

その他の具体的な活動計画についても協議が進み、今期は一つひとつの活動を丁寧に、かつ濃厚に作り上げていく体制が整った。次回例会は、6月25日を予定しており、MANGO設立当初に支援していた事業を掘り下げていく。

第17期「経営指針をつくる会」第4講 21世紀型企業、づくりの課題をつかむための内部環境分析

経営理念、経営方針（中期的戦略論）、経営計画（短期的戦略論）から成る経営指針の作成を強く推奨する宮崎県中小企業家同友会（以下、同友会）では、毎年「経営指針をつくる会」という講座を企画運営しており、今年度は17期目となる。朝から夕方まで丸一日かけた講座が6回、一泊二日の講座が2回、計8回の講座を約9ヶ月かけて受講する。このなかなかストイックな第17期の「経営指針をつくる会」も、5月18日は第4講目となり、「21世紀型企業づくりの課題をつかむ（2. 内部環境分析）」と題して、「社員の創意や自主性が十分に発揮できる社風と理念が確立され、労使が共に育ち合い、高まり合いの意欲に燃え、活力に満ちた豊かな人間集団としての企業（かなり欲張りな文章だが）」づくりに向けて自社の現状を知り、実戦に向けて課題を掴むために学び合った。



社員が豊かで明るい将来を 描ける会社なのか

午前中は予習課題であった「社員の思いを聞く（社員アンケート）や社員の年齢構成表、採用と定着の表（社員の採用した年と退職した年を記載する表）を元に、サポーターに質問されながら受講生が現状を話し、それに対して様々な指摘や意見を受けるとい形が進んだ。社員の年齢構成表は、5年後、10年後に社内の年齢構成がどのように変化しているのかが見えるし、採用と定着の表を見れば離職が多い年とそうでない年に何が起きたのかを分析すると、自社の課題がより明確に見える。

労働市場と働く環境の変化

昼食休憩後は、「人が育つ会社の基盤づくり（労働市場と働く環境の変化）」と題して、社会保険労務士法人ALX代表社員の井手真弓氏が2時間の講話を行った。人手不足の状況から、国がどのような政策を打ち出し、その結果として労働市場は今度どのように変わっていくのかを数値に照らし推測すると、5年後、10年後は今とはまた全

自社の将来を描き、 人が育つために

その後のグループ討論では、「自社の将来を描き、人が育つために何をすべきかを考える」と題して受講者の10年後のビジョンを共有し合った。建設業の人は、県内シェア最大となるべく努力をし、価格決定権や納期を元請けに指示される業界の常識を変え、社員旅行の復活や週休二日制等の労働環境改善が実現しているという夢を語った。キャリアコンサルタントや産業カウンセラーの仕事を法人化しようとしている人は、社会における職業の重要性や業界の発展に対する思いが強い一方で、自社の未来像を明確化できていないことをサポーターに指摘され、それが経営者としての「自信のなさ」に起因していると気づきを得たようだった。最後に、「我が社の5年後を描く」と題して受講生それぞれが自身の夢を発表して第4講を締めくくった。

第4期みやぎき共育ち同友塾・第2講 経営者・幹部（リーダー）が PDCAを回す実践力を磨く

「いい会社」にしておくためには、経営者一人だけの力ではなく、経営者と社員が一体となり、全社一丸の体制が不可欠である。このような考えの元、経営者と社員（特に幹部）が共に育ち合う会社づくりを目指すのが共育ち委員会であり、同委員会がより実践的な学びの場として開講するのが「みやぎき共育ち同友塾（以下、同友塾）」だ。第4期となる今年度の講座は「経営指針を軸に据えた経営を高め、全社一丸体制確立を展望する」経営者・幹部が「PDCA」をまわす実践力を磨いていく」をテーマに一回5時間、半年間で計6回（第一講、第五講十まとめ）で構成されており、5月21日は第二講を迎えた。

第一講で自社の現状と課題を出し合った（Down Activity Report File No. 014 参照）ことを踏まえ、第二講ではそれぞれの会社がプロジェクトの企画案を出し合い、意見交換をした。まだ草案というところもあるが、日常の業務の範囲を超えていない（プロジェクトと呼べない）、具体的な数値目標に繋がらない（努力目標のような検証が難しい）、趣旨が曖昧で全社で取り組めない等の指摘が飛び交った。

私は25歳のチーフと共に受講しているが、彼女は「提案力の向上と売上アップ」をテーマにGAIQ（Googleアナリティクス個人認定資格）Webサイトのアクセス解析のデータを分析する能力、習熟度を認定する資格）を関係する社員が取得して一定の売上を立てるとい企画を提出した。彼女なりに真剣に悩み、考えてきたことのようにだが、難しいのがプロジェクトの「社会的意義」という項目を埋めることだ。売上や能力を向上させることは、会社にとっても社員にとっても必要なことだが、その先にある社会への貢献にどのようにつながっていくかをしっかりと訴えることができない。本場の意味での全社一丸体制にはならない。とは言え、具体的な社内プロジェクトを社会的意義に繋げていくのも難しい。資料の無駄を省いて粗利率を高めると共に環境に配慮するとか、地域の困り事をサポートする等のように、わかりやすく地域や社会の課題に直結している場合ならば考えやすいが、当社のように「自社の分析能力を高めていく」ことを、無理やりではなく、誰もが納得する社会的意義として言葉に表現していくのはなかなか難易度が高い。



5時間の間に、講話、発表、意見交流を行ったが、一緒に受講しているチーフは思考が混乱しているようだった。また、私自身も第一講と同様にスッキリとしない感覚を持ち帰ることになった。後日もそのことについて、なぜだろうかと考え続けたが、おそらくそれは社員の気持ちに寄り添えていない私自身の問題だったかもしれない。同友会の会員であり、役員もしていれば、それなりに勉強の機会も多く、難しい問いかけには慣れているが、社員にとっては聞き慣れない言葉が飛び交い、これまで考えもしなかったような難題の連続だ。そうやって悩んだり苦しんだりすることも学びだが、テーマは共育ちである。同じ空間で、同じ目線に立ち、一緒に考えることができていなかったことが反省した。共に育ち合うことの難しさを肌で感じた第二講であったが、自身の課題に気づくことができたのは、第三講の前の社員とのやりとりだった（第三講レポートへと続く）。

文・構成・撮影



水原 英男
TNAソリューションデザイン株式会社
代表取締役
宮崎北支部・理事・増強本部長・
組織強化連絡会議委員・
産学官民連携部会MANGO会長（兼担当理事）・
広報委員会担当理事・青年部設立準備会担当理事

本資料は同友会の会員がゲストや非会員を訪問したり、入会や例会参加をお誘いする際に活用していただくために試験的に増強本部が発行しています。PDFファイルをダウンロードできますので、印刷する等としてご活用ください。